

さて、イエスは、悪魔の試みを受けるため、御霊に導かれて荒野に上って行かれた。4:2 そして、四十日四十夜断食したあとで、空腹を覚えられた。4:3 すると、試みる者が近づいて来て言った。「あなたが神の子なら、この石がパンになるように、命じなさい。」4:4 イエスは答えて言われた。『人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばによる。』と書いてある。」4:5 すると、悪魔はイエスを聖なる都に連れて行き、神殿の頂に立たせて、4:6 言った。「あなたが神の子なら、下に身を投げてみなさい。『神は御使いたちに命じて、その手にあなたをささえさせ、あなたの足が石に打ち当たることのないようにされる。』と書いてありますから。」4:7 イエスは言われた。『あなたの神である主を試みてはならない。』とも書いてある。」4:8 今度は悪魔は、イエスを非常に高い山に連れて行き、この世のすべての国々とその栄華を見せて、4:9 言った。「もしひれ伏して私を拝むなら、これを全部あなたに差し上げましょう。」4:10 イエスは言われた。「引き下がれ、サタン。『あなたの神である主を拝み、主にだけ仕えよ。』と書いてある。」4:11 すると悪魔はイエスを離れて行き、見よ、御使いたちが近づいて来て仕えた。

皆さんは空腹でイライラした経験があるでしょうか。空腹が続くと精神的にも肉体的にも弱り、イライラしたり、忍耐力がなくなったり、冷静な判断ができなくなります。もし戦闘中なら、相手が空腹で疲れ果てている時は攻撃する絶好の機会です。今日の箇所では、イエスが四十日四十夜の断食で疲れ果てていた好機を、悪魔は逃しませんでした。イエスに救い主の資格を失わせるために、三つの誘惑で戦いをしかけて来ました。イエスは悪魔に反撃できたでしょうか。

I. イエスは神の助けを疑いませんでした（1-4節）

イエスは洗礼を受けた直後に、聖霊に導かれて荒野に出て行きました。それは、悪魔の試みを受けるためでした。それは、イエスと悪魔の本格的な戦いの幕開けでした。イエスがこの世に来たのは、悪魔のしわざを打ち壊すためでした（1ヨハネ 3:9）。悪魔のしわざとは、人間を神に背かせて地獄の道連れにすることです。イエスの役目は、人間を悪魔の支配から解放して、神の子どもに生まれ変わらせ、天国での永遠の命を与えることでした。そのためには、イエスは悪魔との戦いを避けて通れませんでした。悪魔との戦いは神の計画だったので、イエスは聖霊（御霊）に導かれるまま荒野に出て行きました。苦しい戦いが始まることは分かっていたのですが、イエスはしぶしぶでもなく、いやいやながらも、喜んで、進んで、神の計画に従いました。それは、永遠の滅びに向かって歩んでいる人間を救いたいという、イエスの愛の表現でもありました。

イエスの断食が終わると、悪魔が近づいて来ました。悪魔は3節で「試みる者」と呼ばれています。これは悪魔の本質をとらえた呼び名です。悪魔の大好きな行動から来ている呼び名です。悪魔の試み、つまり誘惑は、エデンの園で私たち人間の最初の両親（アダムとエバ）に対しても行なわれました。アダムとエバは完全にきよい心と神についての完全な知識を持っていました。しかし、悪魔が害のない者を装って二人に近づき、彼らにことばのわなを巧みにしかけ、神のことばに疑いをを持たせるように試みました。悪魔のことばのわなにかかった二人は、「食べてはいけない。食べたら必ず死ぬ」と神が禁じた実を見て、「食べても大丈夫そうだ」と思いました。今の私たちと違って、アダムとエバは本質が汚れていなかったのに悪魔に誘惑されて、神からいただいた自由意思というすばらしい贈り物を悪いことのために使いました。アダムとエバが負けたのですから、悪魔の誘惑に勝てる人は一人もいません。人間は自分の力で悪魔の支配から逃れることができません。

ですから、イエスが来ました。父なる神や聖霊なる神とともに、唯一で真の神である子なる神が、人間のからだを取ってこの世に現われました。そして、すべての人を救うために、すべての人の代表として悪魔との戦いに臨みました。悪魔は、空腹というイエスの弱みにつけ込んで、「あなたが神の子なら、この石がパンになるように、命じなさい。」と誘惑しました。イエスは神でもあったので、水をぶどう酒に変えたように（ヨハネ 2:1-12）、石をパンに変えて食べることもできました。しかし、もしもそうしたら、父なる神の助けや配慮を疑うことになりました。しもべ（救い主）として神の計画に100%従うことに失敗しました。救い主の資格を失いました。人間を悪魔の支配から救い出すことができなくなりました。

イエスは四十日四十夜の断食で精神的にも肉体的にも弱っていましたが、神としての力を封印して悪魔に立ち向かいました。そのような状態でも冷静に判断して、「人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばによる。」と旧約聖書のことばを使って、悪魔の誘惑を斥けました。イエスは「食物は全く必要ない」と言っているのではありません。むしろ、「貯えるのに全世界が必要なほどの食物を持っていても、神が維持と保護を止めれば、人間は生きられない。」と言っているのです（ルカ 12:16-21）。アダムとエバは誘惑されましたが、イエスは神のことばを疑いませんでした。罪を犯すために自由意思を用いませんでした。神が必要な助けを差し伸べてくださるまで待つ心を失いませんでした。忠実に救い主の務めを全うする意思をなくしませんでした。

II. イエスは神を試しませんでした (5 - 7 節)

神の助けを疑わせることに失敗したので、悪魔は攻撃の方法を変更しました。今度はイエスに神を試させようとして、イエスをエルサレムに連れて行き、神殿の頂に立たせて、こう言いました。「あなたが神の子なら、下に身を投げてみなさい。『神は御使いたちに命じて、その手にあなたをささえさせ、あなたの足が石に打ち当たることのないようにされる。』と書いてありますから。」聖書を使うのは信者だけではないのですね。驚いたことに、悪魔は詩篇 91 篇 11 節と 12 節を使いました。確かに、詩篇 91:11 節と 12 節には、神が天使を遣わして信者を守ることが約束されています。しかし、詩篇 91:11 節と 12 節は「無意味な危険を冒して、神が守ってくださるかどうか、神があなたを愛しているかどうか試してみなさい。」と勧めていません。たとえ動機が良くても、神を試みることは罪です。もしイエスが正常な判断力を失って、悪魔の挑発通りに身を投げたら、神を試みたことになり、救い主の資格を失いました。悪魔のしわざを打ち壊すことに失敗しました。嬉しいことに、イエスは私たちと違い、悪魔にだまされませんでした。

悪魔のような聖書の使い方は曲解です。悪魔の引用の仕方は別の聖書のことばに対立していました。悪魔は詩篇 91 篇 11 節と 12 節を、意図的に自分の都合の良いように使いました。そのような使い方は間違いであり、罪です。私たちも悪魔と同じ罪を犯さないために、一部の聖句を都合よく解釈するのではなく、聖書の他の箇所と照らし合わせて神の御心を求め、従うようにしましょう。神はすべての信者にそう望んでいます。また、「自分に都合の良い聖句は良く用いるが、自分に都合が悪く、代償や痛みを伴う聖句は無視する」という態度を取らないようにしましょう。なぜなら、それも神を試みることだからです。イエスは悪魔の 2 回目の誘惑の意図も分かったので、神を試みることをきっぱり拒否するために、『あなたの神である主を試みてはならない。』とも書いてある。」と別の聖書のことばで答えました。

III. イエスは第一の戒めを破りませんでした (8 - 11 節)

2 回目の誘惑も失敗したので、悪魔はまたも戦法を変えました。今度は、イエスを非常に高い山に連れて行き、この世のすべての国々とその栄華を見せて、「もしひれ伏して私を拝むなら、これを全部あなたに差し上げましょう。」と誘惑しました。この誘惑には悪魔の本心が隠されています。悪魔は積年の思いを成し遂げるために、とうとう一発逆転の賭けに出ました。悪魔はもともと天使でした。しかし、天使の立場に満足できないで、天使の領域（職務や身分）を超えようとしていました。その罪によって、仲間の天使たち（悪霊たち）とともに神のもとから追い出されました（ユダ 1:6 ; 2 ペテロ 2:4）。それでもなお、悪魔は神になりたいという罪深い思いを捨てていませんでした。その思いを成し遂げようとして、「もしひれ伏して私を拝むなら、この世とこの世の栄華を全部あなたに差し上げましょう。」と誘惑しました。

もしイエスが欲にかられて悪魔を拝んだら、「ほかの神々を拝んではならない」という第一の戒めを破ったことになってしまいました。悪魔を拝むことは、悪魔を神と認めることでした。イエスは極限の衰弱状態であっても、悪魔の真意を読み取りました。悪魔は「私はこの世の国々をあなたに与える権威を持っています。」と主張しました。確かに、アダムとエバが悪魔に誘惑されて以来、すべての人は罪によって悪魔の奴隷になってしまいました。しかし、それでもなお、この世は神のものです。そして、神はすべてのものをイエスに与えました。ヨハネ 3 章 35 節に、「父（神）は御子（イエス）を愛しておられ、万物を御子の手にお渡しになった。」と書かれています。悪魔は嘘つきです。世の初めからの嘘つきです（ヨハネ 8:44）。嘘も悪魔の特徴の一つです。

悪魔は人間の弱点をよく知っています。全世界や一国を自分のものにしたいと望んだ人々はたくさんいました。全世界や一国を望まなくても、人間はこの世の名誉や財産を神以上に愛する性質を生れながら持っています。この種の誘惑は人間にとって最も魅力的です。ですから、聖霊の助けと導きがなければ、私たちは神よりもこの世の名誉や財産を愛する罪に簡単に陥ります。神よりも名誉や財産を愛することも偶像礼拝で、「ほかの神々を拝んではならない」という第一の戒めを破ります。もし、イエスが全世界を手に入れるためにたった一度でも悪魔を拝んだら、神に背いたことになり、救い主として失格しました。そればかりでなく、イエスは悪魔の奴隷になりました。

賛美と栄光と感謝と栄誉が代々限りなくイエスにありますように。イエスは今回も悪魔に誘惑されませんでした。「引き下がれ、サタン。『あなたの神である主を拝み、主にだけ仕えよ。』と書いてある。」と言って、悪魔の誘惑を斥けました。イエスは悪魔との戦いを続け、十字架上の死と三日目の復活によって悪魔に完全な勝利を収め、福音によって神の国を確立します。これはすべての人にとってすばらしい知らせ、福音です。

アダムとエバが悪魔にだまされ、神の戒めを破り、罪とその報いである死がすべての人に広がったことは残念です。しかし、「後のアダム（イエス）」は悪魔にだまされませんでした。私たちに代わって悪魔の誘惑を打ち破りました。イエスの勝利は信仰を通して私たちの勝利です。ですから、ヘブル人への手紙の著者は私たちをこう招いています。「私たちの大祭司（イエス）は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯されませんでした。すべての点で、私たちと同じように、試みに会われたのです。ですから、私たちは、あわれみを受け、また恵をいただいて、おりにかなった助けを受けるために、大胆に御座（イエスの王座）に近づこうではありませんか。」（ヘブル 4:15,16）